様式2

都市再生整備計画　事後評価シート

幕張新都心地区

令和7年3月

千葉県千葉市

様式２－１　評価結果のまとめ

都道府県名	千葉県	市町村名	千葉市	地区名	幕張新都心地区			面積	65.4ha
交付期間	令和3年度～令和6年度	事後評価実施時期	令和7年3月	交付対象事業費	408.6百万円	国費率	0.5		

1）事業の実施状況

		事業名		
当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路事業、地域生活基盤施設事業、滞在環境整備事業（バスシェルター整備、社会実験）		
	提案事業	なし		
		事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
当初計画から削除した事業	基幹事業	なし		
	提案事業	なし		
新たに追加した事業	基幹事業	滞在環境整備事業（滞在環境整備）	社会実験の一環として、滞留空間の創出に向けた人工芝やベンチを設置するため。	事業最終年度における目標値を各項目ごとで上方修正した。
	提案事業	なし		

交付期間の変更				
	当　初	令和3年度～令和5年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	事業最終年度における目標値を各項目ごとで上方修正した。
	変　更	令和3年度～令和6年度		

2）都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況

指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み		効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
指標1	道路や公園での「滞在人数」	人/h	3	R2	40	R6		76	○	あり		JR幕張豊砂駅の駅前広場、周辺道路の整備に加えて社会実験の一環で実施したイベントや市道上に人工芝やベンチを設置したことにより滞在人数が増加した。	
										なし			
指標2	道路・公園空間における「アクティビティの種類数」	個	3	R2	10	R6		14	○	あり		上述のとおり、ハード整備に併せて社会実験の一環で実施したイベントや市道上に人工芝やベンチを設置したことにより来街者のアクティビティの種類数が増加した。	
										なし			
指標3	歩行者の通行量	人/h	45.7	R2	130	R6		132	○	あり		上述のとおり、ハード整備に併せて社会実験の一環で実施したイベントや市道上に人工芝やベンチを設置したことにより歩行者の通行量が増加した。	
										なし			
指標4										あり			
										なし			
指標5										あり			
										なし			

3）その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況

指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
その他の数値指標1												
その他の数値指標2												
その他の数値指標3												

4）定性的な効果発現状況

5）実施過程の評価

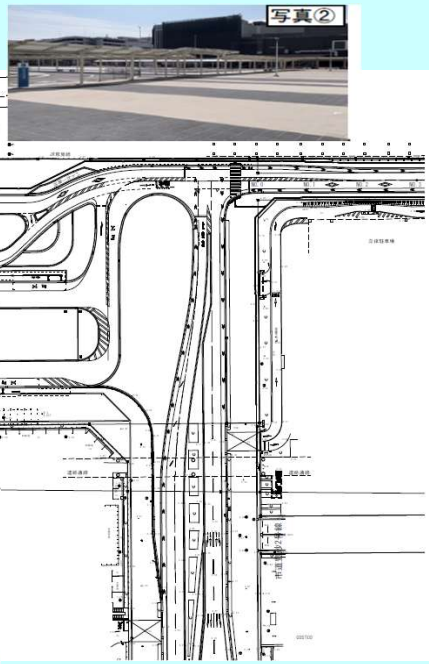
	実施内容	実施状況		今後の対応方針等
モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた		
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
官民連携による取組	JR幕張豊砂駅周辺の企業等と「幕張豊砂ウォーカブル推進社会実験実行委員会」（以下、実行委員会）を組成し、「居心地よく歩きたくなるまちなか」の形成に向けた社会実験を実施。	都市再生整備計画に記載し、実施できた		令和5年7月から令和7年3月が当初設定された実行委員会の活動期間であるため、令和7年2月から社会実験の振り返りのために報告書の作成準備を開始している。
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	○	
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
持続的なまちづくり体制の構築	同上。	都市再生整備計画に記載し、実施できた		
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	○	同上。
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		

様式2－2　地区の概要

幕張新都心地区（千葉県千葉市） 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標　：　自動車中心から「ひと中心」へのまちづくりの転換を図ることで、「居心地よく歩きたくなるまちなか」の形成を実現 目標1　：　道路・公園等の公共空間が「通行」だけではなく「滞在」の空間化 目標2　：　道路・公園等の公共空間における「アクティビティの多様性」を向上 目標3　：　道路が自動車から「ひと中心」の空間化	道路や公園での「滞在人数」	単位：人/h	3	R2	40	R6	76	R6
	道路・公園空間における「アクティビティの種類数」	単位：個	3	R2	10	R6	14	R6
	歩行者の通行量	単位：人/h	45.7	R2	130	R6	132	R6
		単位：		H		R		R
		単位：		H		R		R

【道路、地域生活基盤施設、滞在環境整備（バスシェルター）】
道路：343m
駅前広場：15,320㎡
取付道路66m
バスシェルター：516.5㎡



まちの課題の変化	・JR幕張豊砂駅周辺の企業等と「幕張豊砂ウォーカブル推進社会実験実行委員会」（以下、実行委員会）を組成し、「居心地よく歩きたくなるまちなか」の形成に取り組むための社会実験を実施。 ・社会実験の一環で整備した人工芝やベンチは実行委員会内で高い評価を得ている。
今後のまちづくりの方策（改善策を含む）	・社会実験の一環で滞在快適性を高め、滞留時間を延ばすための取り組みを実施するも来街者の滞留に至らなかった例もあった。そのため、エリア内の場所ごとの機能（例：滞在、通行、展示等）を見定め、整備（例：人工芝、ベンチ、日除け等）の必要性を実行委員会内で中長期的な視点で議論し、合意を目指す。